

第2次安芸高田市総合計画(第2回)審議会 要点録

開催日時：平成26年8月8日(金)午後7時～9時20分

開催場所：安芸高田市民文化センター

(クリスタルアージュ 4階小ホール)

出席者	<p>■審議会委員（敬称略）</p> <p>平田 武幸 吉田町地域振興会連絡協議会 久保野哲也 八千代町振興会連絡協議会 用田 正 高宮町地域振興会連絡協議会 冨永 道治 甲田町地域振興連合会 正田 建二 向原町地域振興会連絡協議会 吉長 成恭 広島国際大学 高崎 義幸 広島修道大学 山本 優 安芸高田市議会 総務企画常任委員会 児玉 史則 安芸高田市議会 文教厚生常任委員会 大下 正幸 安芸高田市議会 産業建設常任委員会 徳永 彰 安芸高田市医師会 桂 啓介 安芸高田市歯科医師会 近藤 俊樹 広島北部農業協同組合 竹重 博樹 (社福)安芸高田市社会福祉協議会 猪上 優彦 安芸高田市民生委員・児童委員協議会 佐藤 正彦 安芸高田市老人クラブ連合会 西名 真一 (公財)安芸高田市地域振興事業団 中田 幸子 安芸高田市ふるさと応援の会 佐々木高美 安芸高田市PTA連合会 岸本 勇示 安芸北森林組合</p> <p>■安芸高田市 永井 初男 教育長</p> <p>■事務局</p> <p>武岡 隆文 企画振興部長 山平 修 企画振興部 政策企画課長 宮本 智雄 企画振興部 政策企画課長補佐 河本 圭司 企画振興部 政策企画課 企画調整係長 森本 貞彦 企画振興部 政策企画課 企画調整係 主査</p>
欠席者	<p>■審議会委員（敬称略）</p> <p>藤井 敏法 美土里町地域運営協議会連合会 熊高 一雄 安芸高田市商工会 岩下 雅俊 安芸高田市PTA連合会 森脇 洋平 安芸高田市工業会</p>
傍聴者	10人

<p>会議次第及び資料</p>	<p>会議次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 総合計画策定スケジュールについて【資料1】 (2) 市民アンケート調査の結果について【資料2】 (3) まちづくりシンポジウムでのご意見について【資料3】 (4) 基本構想の素案について【資料4】 (5) その他【資料5】 4. 閉 会 <p>【資料】</p> <p>資料1：第2次安芸高田市総合計画策定スケジュール（案）</p> <p>資料2：安芸高田市まちづくりアンケート調査</p> <p>資料3：まちづくりシンポジウムでの意見集約</p> <p>資料4：安芸高田市第2次総合計画構想（素案）</p> <p>資料5：基本構想の更なる肉付けについて</p>
<p>会 議 概 要</p>	
<p>事務局</p>	<p>1. 開 会</p> <p>本日は、ご多忙の中にも関わりませずお集まりいただきありがとうございました。まちづくりシンポジウムに際しましても、大変ご多用の中、多数ご参集くださり、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>第2回安芸高田市総合計画審議会を只今より開催させていただきたいと思っております。本日の会議には、委員24名中出席者20名欠席者4名となっております。従いまして、安芸高田市総合計画審議会条例第5条第2項の規定によりまして半数以上の出席をいただいておりますので、会議の成立・定足数に達していることをご報告申し上げます。それでは、ただいまから次第に沿って会議を進めさせていただきます。</p> <p>最初に会長からご挨拶をいただきたいと思っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>2. 会長挨拶</p> <p>こんばんは。皆様、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。先ほどお話にありましたように、先般のまちづくりシンポジウムには皆様にご参加いただきまして、ありがとうございました。私は非常に良識のない進行をしました。皆様にも色んなご意見がお待ちしておりますが、山口先生の話、ご紹介いたしました小学校の子どもたちの言葉に支えられまして、「自助・共助・公助」というテーマのシンポジウムを開催することができて大変嬉しく思っております。</p> <p>引き続き今回の第2回安芸高田市総合計画審議会におきましては、シンポジウムの流れをはじめ、皆様のご意見をうかがって、充実したものにしたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>まず、資料の確認をいたします。机上に会議次第と資料1、3、5、さらにチラシ1枚を配布しております。資料2と資料4は事前に送付させていただいております。もし、不備等ございましたら、事務局までお申し付けください。また、前回同様、今回も要点録作成のため、録音をさせていただきます。あらかじめご了承ください。</p> <p>それでは、次第3の協議事項に移りますが、審議会条例第4条第3項の規定によりまして、会議の議長を会長をお願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>3. 協議事項</p> <p>それでは、次第に従いまして、協議を進めてまいります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>協議事項の1番目でございます。総合計画策定スケジュールについて、事務局より説明をお願いします。</p>

事務局	<p>(1)総合計画策定スケジュールについて【資料1】</p> <p>それでは、資料1をご覧ください。 <策定スケジュールについて説明></p>
会長	<p>総合計画策定スケジュールについて、基本構想の議会への上程を、9月議会から12月議会へ変更し、その分、審議会を月に1回程度の開催に回数を増やし、しっかり議論を深め、精度を高めた充実したものにしていきたいということです。この件について、ご意見がありますか。</p>
委員	<p>審議期間が長くなるということは良いことだと思います。資料4の総合計画の素案をみたところ、ストーリー性が必要だと思いました。この日数でこれだけのものをまとめていくなれば、月1回と言わず審議を重ねていかないと10年間のスケールの計画はできないと思います。市民が理解できる内容のものにするために、更なる期間延長は可能なのでしょうか。このスケジュールで絶対やりきらなければならないのでしょうか。できれば、言うことはないのですが。</p>
会長	<p>12月議会への上程という変更には賛成だが、スケジュールに余裕があるわけではないので、鉢巻きを締めなおして、しっかり議論して充実させていこうというご意見でした。 その他、スケジュールについて、ご意見ご質問はありますか。 ないようですので、お認めいただくということによろしいでしょうか。</p>
委員	承認
会長	<p>続きまして、市民アンケート調査の結果について、資料2によりまして事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2)市民アンケート調査の結果について【資料2】</p> <p>アンケートにつきまして、調査票の検討からご協力いただき、ありがとうございました。 本業務を委託しております、株式会社エブリプランから説明いたします。</p>
エブリプラン	<p>資料2により市民アンケート結果について、説明いたします。 <市民アンケート結果について説明></p>
会長	<p>アンケート結果の概要の概要としての説明でした。このことに対して、ご質問、ご感想、このような分析をしてはどうかというご提案などを、ご意見として伺いたいと思います。</p>
委員	<p>市民アンケート有効回収率32.1%というのは、一般的にこの程度のものなのでしょうか。市民の意識が低い気がするのですが。</p>
会長	<p>中高生の場合は、配布したのが学校ということもあり、回収率は91.4%と非常に高い数値となっています。18歳以上の一般の調査については、一般の商業アンケートなどであれば、高い回収率といえますが、公的機関が実施した調査としては、もう少し高くてもいいかなと思いますが、十分使える数字であり、無効というほどの回収率ではないという印象を持っています。</p>
委員	<p>無作為の幅広い年代に行うアンケート調査では、30%を超えると高い方で、大成功と言える数値だと思います。</p>
会長	<p>この回収率は悪い数字ではないとご理解ください。 概要版の説明の中にもありますが、18歳以上の市民の回答者の年齢に偏りがあります。若い世代の関心事についての意見がもっと得られるとよいと感じました。市の施策に関する情報の入手の仕方などの影響があると考えられます。総合計画の内容を、どのように世代を超えて幅広く伝えていくかという点については、今後の努力目標とさせていただきますが、この調査結果は有効に使える大事なデータが出ているという印象を私は持っています。 その他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>学生のスポーツに関する点について、数値が意外と低いという感想を持ちました。 希望として、できれば、15ページの「農林水産業」振興という大枠での括りを、「農業」と「林業水産業」のふたつに、分けていただけた方がわかりやすいかと思います。</p>
会長	<p>今のデータから分けて抽出することは難しいですね。大枠と各論の番号については、これまでの項目に照らし合わせて採っているもので、これからも項目を分けることは難しいというのが現実です。中高生は、各々2年生に調査しています。市に愛着があるとしている彼らが、定住するかについては乖離があります。このあたりが、10年後に向かって総合計画を立てる我々世代の安芸高田市民が、このギャップをどう次につなげていくかという大事なデータになると考えています。 若い人のスポーツについての関心については、実際にやるもの、応援するものもあり、このスポーツが盛んで全国的メジャーブランドもある本市においては、もう少し意向がみえる分析方法をシンクタンクと検討してみたいと思います。大事な視点からの意見をありがとうございました。 他にいかがでしょうか。 生徒向けには、現場の教員の意見も入れて、判りやすく参加しやすい形での工夫をしてみました。</p>

委員	回収率が、生徒と一般で、91.4%と32.1%と大きく違っています。この回収率で十分と言われましたが、街でのアンケートと中山間地でのアンケートを比べてみると、当地でのこの回収率は、説明不足による市民の関心のなさの表れと感じられます。アンケートの取り方に、問題があったのではないのでしょうか。
会長	率直な意見をありがとうございました。確かに大都市でのアンケートと異なり、皆で一丸となってまちづくりのことを検討すべき時に、もっと回収率が上がって、安芸高田市についての住民の関与がもっと高くいいのではないかと。そこには、アンケートの配布方法などやり方に課題があったかもしれないということも、お含みされたご意見ですかね。配布経路について、学校というのは非常に確かですが、一般的なアンケートというのは、確固たる配布経路がはっきりなく、仮にあって回収率が悪くなるということでしょう。
エブリプラン	無作為で郵送すると、回収率はこの程度にとどまることが普通です。学校から配布したように、たとえば自治会を通して配るなど、顔の見える形でおこなったり、事前に広報をしたり、あるいは設問の組み方で、ボリュームを調整するなど、いくらか改良の余地はあったかとは思いますが。
委員	この回収率では、アンケートを実施した意味がないと思います。回答が返ってこないアンケートの意味がないと思います。配った、市民の意見は聞いたという形だけで終わるのではないのでしょうか。回収率をよくすることを、もっと考えるべきであったと思います。
委員	私もこの回収率に愕然としました。前回2,000人位を対象にアンケートを配るという話でしたが、今回は1,778人にアンケートを配布したとあります。もっと意見が欲しかったのなら、2,000が2,500になっても良かったと思います。ただアンケートをしたという事実が欲しかったのでしょうか。配布数が少なくなった理由を教えてください。
事務局	まず、旧町別に人口割合と男女、各年代層を分けたうえで無作為に抽出をしました。その中に200～300名の外国人の方が含まれていました。人権多文化共生推進課とも協議したところ、日本語が読めない方もおられ、同じアンケート用紙では、とても回答は無理だということになり、外国人の方を除外して発送しました。とはいえ、外国人の方の意見も欲しいというところで、ある程度、日本のことが判り、言葉の面でも回答が可能な方を人権多文化共生推進課からご紹介いただき、アンケート用紙を送付しました。また、同一世帯から複数抽出された場合は、そのうち1名のみで郵送しました。その外国人の部分と同一世帯に対する調整のため、人数が減ってしまったということです。減った分を追加すればよかったですのですが、回収集計の時間的な余裕もなく、結果、この配布数になりました。
会長	補正した無作為抽出のため、目標2,000から減少してしまったということですね。有効回収率32.1%をよしとするかというのは、難しいところです。この数値が調査に関する関与率と同義になり、低いと言えれば低いという印象がないこともないですね。
委員	基本的には、タイミング的に無理があったと思います。4月に審議会を立ち上げ、すぐにアンケート調査を実施されましたが、総合計画について、審議するというアクションをとった上で、審議会の立ち上げ自体をきちんとピーアールしてからのアンケート実施であれば、もっと回収できたのではないのでしょうか。基本的な問題はそこにあると思います。
会長	私が客観的に見て、施策に対するコミュニケーションがあまりよくないと感じています。これが課題だと思います。これを改善していくとなると、もう1回プッシュして、もっと事前にPRしてもう一度やるかということになりますが、そこまでやった方がよいのかどうかというと、統計データの形から言えば、殺風景な言い方ですが、これが有効でないとは全く言えないと思います。ただ、住民の関与が低かったということは言えると思います。また、行政のやり方も、もっとあったということもいえると思います。だが、このアンケートは意味がなく、これが総合計画の裏付けにならないとは言えないです。意味があると判断していい数字であると思います。 このような社会調査を中山間で行ってきている先生の意見をもう一度伺いたいのですが。
委員	先ほど言われましたが、アンケート回収率を高めようとすると、時間とお金と回数が必要になります。一番回収率が高いのは、1対1の面接です。次に、国勢調査のような一軒一軒の戸別訪問ということになります。今回はそれをする時間とお金がなかったことが、一番大きな影響かと思っています。また、このアンケート結果にも表れているように、中山間地域でも生活スタイルが都市化したことにより、一般市民は大体こういった行政に対する関心は、低くなっているという社会的背景が大きいと思いました。
会長	率直な意見をたくさんいただいています。基本構想の素案のところでもアンケートに関係したことが出るので、そこで一緒にご意見を伺いたいと思います。 次の議題に進めて、まず、まちづくりシンポジウムでのご意見について報告を受け、その後「基本構想の素案について」のところ、アンケートについてのご意見も含めて伺っていくという形で、進行していきます。 それでは、まちづくりシンポジウムでのご意見についての説明をお願いします。

事務局	(3)まちづくりシンポジウムでのご意見について【資料 3】 まちづくりシンポジウムでのご意見について、資料 3 により説明します。 ＜まちづくりシンポジウムでのご意見について説明＞
会 長	まちづくりシンポジウムでの意見の集約について、大きく二つ、安芸高田市誕生からの変化と、これからの安芸高田を元気にするアイデアについてのご意見を伺っています。市民アンケートに基づいた内容の具体的な言葉としての表現と言える、非常に関係の深いものとなっています。参加者はまちづくりに関心の高い方が多く、アンケートの回答率も高く、市民アンケートを補完する大変重要な意見集約として参考になると思います。まちづくりシンポジウムでのアンケートも、市民アンケートと一緒にしながら分析を進めて、総合計画の裏付けとしていきたいと思っています。本日配布した資料ですので、すぐにご意見をいただくのは難しいと思います。これはご報告として、議事を進行させていただきます。
委 員	市役所において、9 ページ 1 番下の行政嘱託員制度の見直しについて、市の厳しい財政状況からも現状を確認し、一考すべきと考えています。
事務局	行政嘱託員の皆様には、月 2 回の行政情報の配布等をお願いしている中、高齢化も進み、負担となっている面もあると思います。お助けフォンの整備も進み、紙媒体の縮減・月 1 回の配布への変更を検討しているところです。
会 長	他にございませんか。 それでは、基本構想の素案について事務局から説明をお願いします。
事務局	(4)基本構想の素案について【資料 4】 それでは、基本構想の素案について、エブリプランから説明いたします。
エブリプラン	資料 4 により基本構想の素案について、説明いたします。 ＜基本構想の素案について説明＞
会 長	ありがとうございました。これまで収集したアンケートやシンポジウムのご意見、第 1 回審議会の皆様のご意見等を少しずつ加味して、叩き台の叩き台としての素案を提案していただいております。一応項目を並べたというレベルのものではございますが、ご意見をお願いいたします。
委 員	安芸高田には芸備線と中国道があるにもかかわらず、これを利用するような計画になっていないと感じました。この大動脈を活用し、他県からの観光客等を誘致するようなことを考えるべきではないでしょうか。向原から吉田を經由して、美土里の「北の関宿」への交通網の整理が必要ではないでしょうか。お太助ワゴンでは時間がかかりすぎ、観光客を誘致することは、まず無理であるように思います。
会 長	大変大事な視点であります。17 ページの土地利用構想に少し触れてありますが、今のように具体的な記載はないのが現状です。安芸高田の有効性を活かした現実的な構想として、素案に付加していただけたらと思います。是非引き続き検討、構想についてのご支援をいただきたいと思います。事務局からの意見はありますか。
事務局	観光を中心に人口の交流や誘致を図っていくというご意見でした。今、安芸高田市では神楽・毛利元就をはじめ、市の宝を活用して観光を活性化していこうと取り組みを進めております。とりわけ、安芸高田市の交通網、JR 芸備線、三江線、国道 54 号線、中国道、そういったものとリンクさせながら、安芸高田市の宝・観光地を巡ることができるようなことを当然考えていくべきであると思います。ただいまのご意見を反映させていただきながら、また計画を積み上げていきたいと思っております。
会 長	本当に良いご指摘をありがとうございました。その他、ありませんか。
委 員	第 2 次総合計画の素案として提示されているわけですが、前回の審議会で、市の幹部から第 1 次の総合計画の考え方についての説明がありました。第 1 次は、6 町の考えを持ち寄り新市建設計画として位置付けたことを整理し、やっぴいこうというものでした。この間、それなりの評価なり課題というものがある、あったのではないかと思います。今回、第 2 次の総合計画を策定するにあたって、第 1 次のソフトとハードの成果や課題について、何を掲げてコンサルの方で整理されているのでしょうか。現在どの市町も、少子高齢化対策、人口増加対策ということを一番に掲げています。 ここにも、日本創成会議からの、市としての存立が危ぶまれているということまで書いてあります。しかし、将来構想に、全くそういうことが具体的に記載されていません。現況の課題と、次の 10 年の計画が、全くマッチしていない中身で大変残念です。 第 1 回審議会の時に、浜田市長の挨拶の中で、市民総ヘルパー構想を基本概念としてやって欲しいというご意見もありました。現在の安芸高田市が抱えている課題として、人口が減少していく予測の中、人口 30,000 人をどうやって維持していくかが、やはり表に出てくるべきだと思います。「自助・共助・公助」、「譲り合いと熱意」で頑張れと言われても、難しさがあります。「次の 10 年はこういう形で行くんだ」というところを出していただきたい。その為に、第 1 次の課題をどのようにとらえているのか、お聞きします。

会 長	<p>第2次の計画策定に向けては、第1次の成果なり課題を整理分析し、そのことを明記することも必要ではないかというご意見でした。</p> <p>また、人口問題の件につきましても、市の人口は30,000人という一つの目安がある中、その数値に近づけるべきではないかというご意見でした。27,000人というところで数値化したことは、今までにない形で、現実的かつ野心的な数値設定になっていますが、ある意味、もっともっと野心的になってもいいのかもしれない。</p>
事務局	<p>貴重なご意見、ありがとうございます。</p> <p>おっしゃっていただいたとおり、平成17年に策定した第1次の総合計画は、新市建設計画を基本として策定されたものであります。その中に掲げてありました施策を、この10年間で進めてまいりましたが、お陰様で大きな事業は一定程度完結したと評価しております。</p> <p>第1次の総合計画策定時の10年後の人口の目標設定ですが、合併時の人口が34,500人でしたが、将来的な夢も持ちながら、また期待も込めながら35,000人という数値を設定させていただきました。その時にも、10年後の人口推計もあったわけですが、10年前の人口推計の数値がまさに現在の本市の人口となっているわけです。そういった現実も踏まえながら、実際の施策とあまり乖離した数値にならないよう、第2次につきましては、あまり夢ばかり追いかけるのではなく、10年後の人口推計にプラス1,000人増を見込んでいこうとご意見です。色んな施策を展開していく中で、人口という問題はある意味大きなキーワードになってまいりますので、そこがぶれてしまうと様々な施策に影響が出てくるということで、ある意味、実直な数字も踏まえながら、頑張っていこうとご意見です。人口減少に少しでも歯止めをかけたらいこうという考えでございませぬ。</p>
委 員	<p>もう一点お願いします。</p> <p>このキャッチフレーズですが、「協働とワクワクがつなぐ」ということですが、もう少し安芸高田らしさを出せないでしょうか。「中山間都市」というのはありふれていますので、どういう表現がいいのかわかりませんが、本計画の方向性が定まらないと、キャッチフレーズも固まらないと思います。基本方針についても書かれていますが、誰が見ても向こう10年頑張るんだなということが見える表現にしていきたいと思います。例えば、「少子高齢化への挑戦」であるとか、「子どもを育てやすい環境づくりへの挑戦」であるとか、人口30,000人に向けての取組みについて整理していただきたいと思ひます。また、財政についての記述も抜けていますので、財政推計等についても整理していただきたい。</p>
会 長	<p>もっと挑戦していくような、ファイティングポーズを示せという激励のご意見にも聞こえましたが、皆さんどうですか。とんでもない数値ではいけないと思ひますが、少し夢がないと寂しいのかもしれないね。</p>
エブリプラン	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>我々も、魂を入れていく作業はこれからだと思ひています。具体的な取組等につきましては、市役所の各部署、各課のご意見を今後聞かせていただきたいと思ひていますし、まちに出て地域で頑張っておられる住民の皆様とも対面でお話を伺っていききたいと思ひています。どういう課題があり、どういう施策にニーズがあるのかという調査を、今後行っていききたいと思ひています。本日の皆様方からのご意見も真摯に受け止め、今後の取組みにしていききたいと思ひていますので、よろしくお願ひいたします。</p>
委 員	<p>私たちの若いころ、昭和の時代の夢を描くようなお話に聞こえます。今の国の予算100兆円の予算のうち、40兆円が年金を含めた医療や福祉に回されています。安芸高田市の主要産業は、農業で次に事業所の数なんです。このTPPがどう変わるかによっては事業所の数も変わるでしょうし、農業も変わっていくでしょう。そうすると、人口を何人確保するといつても、どうなるかわかりません。団塊の世代が今後さらに高齢化してくるわけなんです。中山間地域の人口が減少していくことは、目に見えています。市長が言っている「市民総ヘルパー構想」は、お金をかけないで、お互いの助け合いによって医療費を抑えていこう、健康になろうということなんです。団塊の世代が高齢化した時に、いかに長生きしていただくかということも考える必要があります。財政が厳しい安芸高田市にお金がかかる高齢者にも住んでいただくためには、こういうことも少し考えていただかないといけません。現実的で、夢がない話なんです、こういったことも基本計画に取り入れていただきたいと思ひます。</p>
会 長	<p>更なる応援演説をいただいたように理解しました。</p> <p>将来というのは、夢をどう描くかということになり、そのデータというのは後ろ側にあつて、「温故知新」みたいな話になるのかもしれないと思ひますが、今のお話のように、国の財政なり、地方財政なり、裏付けを持って、しぼむ方向ではなくて、ある程度勇気をもって提案していくくらいの夢を共有して前に進む勢いというものは、必要ではないかなと思ひました。</p> <p>また、ポイントとして、お金のかからない生活ということ掘り下げてもいいのではないかなと思ひました。貧乏な生活ということではなくて、知恵を出していくということなんです。</p>

委員	団塊の世代が、今の人口の何割を占めるかだと思います。例えば3割程度であれば、それは無視できないと思います。
委員	私は、今回の素案をコピーして带状に並べてみました。そうすると、途中が途切れているのです。今から肉付けをされると思うのですが、関連性がないんですね。基本課題についても、第1回審議会で提案された資料の方がまだ良かったです。市民に密着しています。ここに挙げられている課題も、産業構造など特性が出ていますが、当市が掲げる基本課題とも結びついていません。やはりプレゼンテーションというのは、物語なんですね。 そうかと思うと、土地利用構想のことが突然出てきています。読む方からすると、連動性が感じられません。やはり市民が理解しようと思うと、ストーリー性がなくてはだめです。それから、先ほどのアンケート調査の分析結果をここに取り入れていただきたいと思います。 もう一点、第1回審議会の資料の中の総合計画の説明の部分が入っていません。総合計画とはこういうものかというガイドラインを、必ず入れるべきだと思います。
会長	基本構想そのものがプレゼンテーションですよ。コピーライトすることもですが、必ずストーリー性があるということ、また、説明と言いますかガイドライン的な部分を抑えていくということも大切です。
委員	基本構想だから、多く書く必要はないと思います。だから難しいのですが、先ほども出ました夢を挑戦的に描いていくということが必要だと思います。第1回審議会の資料で示された課題などは、まさに市民に密着した課題だと思います。これを是非、活かしていただきたいと思います。
会長	ありがとうございました。その他ございますか。
委員	先ほどのアンケートの結果に、「安芸高田市に住み続けたくない」という回答がございました。今後の取組みとして、この「住み続けたくない理由」に対して、どのように対応していくかということが重要ではないかと思います。小学校は市内の学校、中学になると市外の中学校へ、あるいは高校からは市外の高校へ行くというケースも多いです。それは、教育の問題だと思います。素案の中にも定住のターゲットは30代ということも書いてありましたが、この子育て世代にとっては教育というものが重要であります。教育というキーワードも盛り込んでいただきたいと思います。
会長	教育は、根幹にあたる分野だと思います。
委員	進め方についてですが、コンサルから資料について説明がございましたが、行政の各部署、各課とは、どの時点から関わっていかれるのですか。
事務局	これから、コンサルさんにも関わっていただきながら、行政の各部署、各課の担当者とのヒヤリングを行ってまいります。具体的には9月に入ってからということになります。
委員	ということは、次回の9月の審議会では、執行部側との意見交換の結果等も提案いただけるということですか。
事務局	そうしていきたいと考えています。
委員	委員の皆様は、色んなご意見をお持ちで、残り2～3回の会議の中で、意見を出し切りまとめていくということは、非常に困難なような気がしますが、例えば、2～3のグループに分かれて集中的に審議していくというような方法もあろうかと思いますが、いかがでしょうか。
会長	一つの方法だと思います。一方では、皆様に労力がかかることでもございます。 もう一つは、委員の皆様方は、バックに多くの委員さんを持って、ここにご参加いただいています。それら各組織の皆さんの意見を集約して、ここに参加していただいているということも事実としてございます。 グループを分けるというのは、この審議会メンバーの中で分けるということか、あるいは、組織ごとにワーキンググループのような形で分けるのか、どういう形を想定しておられますか。
委員	この審議会委員の中で別れてはどうでしょうか。
会長	今のご意見について、いかがでしょうか。
委員	グループ分けして、より深く審議することは必要だと思いますが、これから、行政とのヒヤリングなどをされるということなので、それらを踏まえてグループ分けしないと、逆にまとまりが取れなくなりそうに感じます。
委員	一つ提案ですが、先ほどコンサルさんの説明で、今後行政とのヒヤリングと、まちに出て住民の方のインタビューを行われると説明がありました。ここにお集まりの委員の方は、地域の第一線でもご活躍の方ばかりなので、委員の方を優先してインタビューに答えていただくということにしたらどうでしょうか。エブリプランさんが委員の方を訪問して、ご意見を伺うということが現実的ではないかと思います。
会長	キーパーソンへのインタビューのことが出ましたので、その他のところで用意しておりましたキーパーソンへのインタビューについて、先に説明をお願いします。

事務局	<p>(4) その他【資料5】</p> <p>その他のところで用意していました、基本構想の更なる肉付けというところで、キーパーソンへのインタビューについて、説明させていただきます。</p>
エブリプラン	<p>資料5をご覧ください。</p> <p><基本構想の更なる肉付けについて説明></p>
会 長	<p>先ほどのご意見にありましたように、この審議会の委員の皆様にもインタビューをするということによろしいですか。</p>
エブリプラン	<p>現状では、委員全員の方にインタビューをするということは考えていませんでしたが、なるべくそのようにしたいと思います。</p>
会 長	<p>限られた時間でもございますし、大人数でもございます。是非ご協力いただきたいと思います。</p> <p>グループに分かれるにしても、基礎データがいるという話ですよね。アンケート調査や今後行政とのヒヤリング、更にはインタビューのとりまとめ、それらが基礎データとなりますが、どのくらいにまとめられますでしょうか。</p>
エブリプラン	<p>早速行政とのヒヤリング、住民インタビューの日程調整を行って取り掛かりますが、9月いっぱい程度はかかるのではないかと、現状では考えています。</p>
会 長	<p>10月1回で取りまとめということは難しいですね。9月の途中で中間とりまとめをして、そこで一度行うという形になりますかね。</p>
委 員	<p>総合計画は安芸高田市だけでなく、策定後は近隣市町や県にも出ていくものだと思います。時間がなく焦って仕上げても、安芸高田市はどうなっているのかと疑われることにもなりかねません。鉢巻きを締めなおしてやり切りましょう。</p>
事務局	<p>今お示ししているのは、素案の素案というものです。アンケート結果であるとか、これから実施するヒヤリング等を踏まえたうえで、素案を充実したものにしていくという作業をします。その後、皆さんでもう一度、総体的な議論をしていければと考えます。なおかつ、もっと詰めていく必要があるということになれば、今お示ししている審議会の回数にこだわることなく、回数を増やしていければと思います。</p>
会 長	<p>大変ありがたいご意見を、委員の皆様からはいただきました。こんな風に前向きに考えていただく審議会は、珍しいのではないのでしょうか。ありがたいご意見であったと思います。</p> <p>9月の時点でどの程度まとめられるかは、わかりませんが、ある程度皆様に情報共有できる段階になって、次回の審議회를招集したいと思います。また、ワークショップ型の審議会という珍しいやり方になるかもしれませんが、そこのところは、私が預からしていただいて事務局と検討してみたいと思います。是非、みなさまの情熱を活かした審議会にしていきたいと思います。</p> <p>今日のところは、皆様方からの前向きなご意見を聞かせていただいたということにさせていただきます。</p> <p>もうひとつは、コンサルと事務局に対し、「ボクシングのサンドバック」になりなさいと指示していました。たくさんのご意見を出していただけるよう、皆さんから叩かれるような素案を出しなさいと指示しました。そういう点では、見事にそういう素案を出してもらい、良かったと思っています。コンサルを評価してあげてください。</p> <p>全体を含めて、これだけは言っておきたいということがございましたらお願いします。</p>
委 員	<p>これから行政とのヒヤリングも行われるということでした。今日のアンケート調査の中にも出ていましたが、重要分野は産業分野、また足りていないのも産業分野ということが出ていました。また、安芸高田市の人口が減るということも、若い人に住んでいただかなくてはならないということも出ています。そうすると、定住していただくための働く場所、生活に必要な収入はどうするのかということになります。例を挙げると、「安芸高田市の資源でもある、遊んでいる農地を有効利用する。例えば当市で農業を営んでくれる若者には、向こう20～30年と無償で農地を貸与するなど、このようなメリットがあると、全国の若者に発信する」と言ったところまで、素案に盛り込むのかどうか。これから行政とのヒヤリングの中で、どこまで具体的なことを盛り込めるのかわかりませんが、そういったところまで掘り下げたヒヤリングにしていきたいと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。もうひとつ方いらっしゃいますのでどうぞ。</p>
委 員	<p>人口移動についてのデータは出しているのですが、コンパクトなまちづくりについて、少し考えてみたいと思いますので、旧町別の人口移動のデータを出していただけませんか。合併して10年で、各旧町の人口がどれだけ減少したかというデータを次回までにお示しいただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>もう一点、産業構造のデータですが、平成17年から平成22年のデータの比較となっているのですが、平成27年にこのデータを出すとすると5年前のデータということになり説得力がないような気がします。新しいデータをお願いします。</p>

<p>会 長</p>	<p>わかりました。アップデートしていくようにしましょう。事務局をお願いしておきます。</p> <p>産業を活性化するということに対して、私なりの腹案をもっています。各論ということではないのですが、総論よりも少し各論に近いものです。ある本を読みますと、この安芸高田市に産業を誘致しようとしたときに、国内の大手企業を誘致するのではなく、小さくてもいいので、地元の企業を創成してたくさん誘致することの方が、そして地元の人が所有する企業を増やした方が、雇用も生まれるし、域内消費や域内所得も上がるということが数値化されています。ですから、JAさんが言われる地産地消、日常生活品も含めてともいえます。あるいは、シンポジウムの際にもお話ししましたが、「ゆめタウンに安芸高田市産の商品が何パーセント並んでいるのか」というところに、私の腹案があります。アンケートの中にも、「産業を何とかしなければ」というご意見もありました。工業団地に大手企業を呼んでくればいいじゃないかという話には、今ではならないと思います。医療福祉にしても、域内で有効需要を生み出しているものです。これも、地元産業なんです。そういう考え方も必要になってきています。今や、昔の経済学が使えなくなったということは皆さんもご存じだと思います。どういう地元産業の創出があるのかということも、具体的に考えて行きたいと思います。</p> <p>それから、人が出て行くことをどう食い止めて行くかということもありました。教育の話もございましたが、人の地産地消もしなければいけません。しかし、ある時期に外へ出て情報を持ち帰るということも重要になってきます。</p> <p>そういうことも含めて、第2次の総合計画の中で具体的施策のアイデアを出していければと考えています。</p> <p>長時間になりましたが、本日の協議事項は以上でございます。結論的なことは出ていませんが、多くのご意見を頂戴しました。是非、本日のご意見を今後の審議会で活かしていきたいと思っております。</p>
<p>委 員</p>	<p>定住人口を増やす取組みについて、いろいろ考えておられますが、ふるさと応援の会は、外部の力を活用して市内を活性化しようということで設立された組織です。定住人口もですが、日曜日の昼間の人口が多くなれば産業も大きくなるし、地元も活性化するのではないかと思います。定住することばかりでなく、外から中に入って来る力を活用することも考えていただきたいと思っております。</p>
<p>会 長</p>	<p>定住人口、交流人口を増やすことだけではなく、もう一つ新しい言葉が発見できるかもしれませんね。</p> <p>それでは事務局に進行をお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>日程も少し先延ばしにしましたが、これはより深い議論を重ねるためです。本日新たなご提案もいただきましたが、より詳細にスケジュールを調整し、より深い議論ができるよう、また、精度の高い計画策定ができるよう事務局も頑張っております。本日は長時間にわたりありがとうございました。</p> <p>最後に閉会にあたりまして、副会長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>台風の直撃を受けそうな明日、明後日を控えてその前夜、2時間以上にわたりまして大変熱心なご討議をいただきました。コンサル、事務局とも大変な作業とは思いますがよろしく願いいたします。本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>以上をもちまして、本日の審議会を終了いたします。ありがとうございました。</p>